

ヨーロッパ経営史学会・経営史学会共催国際会議(2012年)への  
若手研究者の派遣支援について

2011年9月11日

経営史学会会長・阿部武司  
国際交流員会委員長・川邊信雄  
富士コンファランス委員会委員長・宮島英昭

すでにご案内の通り、2012年8月30日から9月1日までフランスのパリにおいてヨーロッパ経営史学会(European Business History Association. EBHA)と日本の経済史学会との共催によるヨーロッパ経営史学会年次大会(以下、パリ大会と略記)が開催されます。経営史学会では、パリ大会での日本の若手研究者の報告を奨励するため、国際交流委員会と富士コンファランス委員会との共同で国際会議派遣委員会を組織し、以下の要領で渡航費・滞在費の一部補助することと致しました。手続きは、まず資格に当てはまる会員にパリ大会の論文公募に各自応募して頂き、同大会組織委員会(本国際会議派遣委員会とは異なり、EBHA主導で組織されます)によって報告が採択されたのち、その会員自身が本会に補助金を申請し、国際会議派遣委員会が補助対象者・金額を決定するという、形をとります。

論文応募の締め切りはまだ公示されていませんが、2011年1月15日に内定しております。パリ大会のテーマ等の情報については、以下のリンクをご参照ください。

<http://ebha.eap.gr/conference.php>

また、ホームページ中の「国際会議、その他」に掲載されている「European Business History Association (EBHA) と経営史学会の大会の共催について(2012年)」も熟読願います。

#### 補助要領

1. 補助金額：10万円程度。
2. 資格： 大学院博士課程在学者、及び、大学院単位取得者で専任職をもたない者。  
具体的には、申請時に本学会会費半額の資格に該当する者。
3. 選考： 2012年度パリ大会組織委員会による報告者の決定後、本学会の国際会議派遣委員会が行う。

以上